



国際化の最前線から



香港からの訪日観光客誘致 現状と課題

AAJ Hong Kong Limited 代表
Chow Jolanda

今、香港は日本の食文化が熱い。ここ数年、香港からの訪日客は毎年記録を更新しており、2014年の92.6万人から2016年には倍の183.9万人となっている。

さらに日本から海外への加工食品の輸出先は12年連続で香港が1位となっており、日本-香港間は緊密な関係にある。香港の人口はおおよそ730万人。決して人口が多いわけではないが、訪日リピーターの比率は約80%と高く世界一なのである（「10回以上」は17.6%）。長い日数の旅行より、年に数回3~4泊の短い旅をする傾向が見られる。

なぜ訪日客が増加の一途を辿っているのだろうか。要因として挙げられるのは「安基調」など。つまり日本への観光は「お得」なのである。さらに日本に対しては「清潔」「安心」「安全」「信頼性がある」という認識が高い。

香港-日本間を結ぶ航空路線の拡大も目覚ましい成長を遂げている。香港エクスプレスをはじめ、LCCによる日本の地方都市への新規就航、座席供給量の増加は訪日客数の増加に大きく貢献している。因みに香港エクスプレスは昨年6月に石垣島線、7月には高松線と鹿児島線が週4便で就航するなど日本の地方都市活性化のカギを握る。

香港人の間で人気が高まっている旅行のスタイルが「レンタカーで楽しむ個人旅行」だ。香港は日本と同じく右ハンドル左側通行なので、容易に楽しめる。観光客らは、メジャーな観光地より、まだ一般的には広く知られていない珍しいスポットに行き、SNSなどにアップ、さらに地元の人々と交流を深めるなど「オリジナル旅行」を楽しむスタイルを求めている。こうした流れを受けて、キャセイ、香港エクスプレスも個人旅行（FIT）取り込みのためのキャンペーンを実施。FIT化の更なる加速が予測され、セールスの時期に合わせて航空券を購入するというスタイルが定着しつつある。

観光庁調査によると、日本滞在中に満足した食べ物は、1位が肉料理、2位が魚料理、3位がラーメン、4位が寿司。全国各地の「和牛ブランド」が浸透している香港では、訪日している間に食する人が多い。同じく

らい人気があるのが「果物」や「果物狩り」だ。土地の狭い香港で経験できない楽しめるとともに、質も高く安価で購入できる果物は外せない。

中国本土、韓国、台湾、タイ、シンガポール、香港と比較すると、1人1泊当たりの訪日旅行における支出額は、香港が2万9,212円で第1位だ（出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査（2015）」）。世帯月収は平均2万5,000香港ドル（約40万円）あり、年休取得日数は20日、うち平均14日間は海外旅行に行く。

こうした彼らに欠かせないものは携帯電話である。旅行中のSNS利用時間は1日当たり2時間が95%、旅行中SNS以外でのスマートフォン利用は平均2.5時間（出典：Hotels.com調べ（2016年））。旅行先で食べたもの、風景を撮影しては、SNSにアップロードする傾向があるため、ネット接続は必須である。ただ、ポケットWi-Fiの利用が増加傾向にあることから、次の問題はバッテリー切れだ。今後は無料Wi-Fiスポットの増設のみならず、スマートフォン及びポケットWi-Fiを充電するスポットの充実も益々求められるであろう。

さて、地方都市の活性化のため海外からの観光客が伸びているのは嬉しいが、一方でいまだ多くの課題と問題点が残る。インバウンド旅行客増加に伴うホテル、バスの不足、言語の問題などは注視すべき点である。例えば日本では中国語は「簡体字」で表示されることが多いが、台湾と香港は「繁体字」を使用しているため注意が必要だ。さらにある旅行会社の調査によると、ホテル、旅館の和室では畳に直接布団を敷くよりベッドを入れてほしいという要望も高かったという。日本の文化を好み楽しみながらも、それぞれ習慣が異なるため、更なる「調整」と「改善」が必要であろう。



2016年7月より発売
愛知県旅行ガイドブック
「散策王一名古屋」

プロフィール

Chow Jolanda（チャウ ヨランダ）
香港出身。イギリスのブリストル大学卒業。2015年AAJ Hong Kong Limited社を立ち上げ、2016年香港向けの愛知県旅行ガイドブック「散策王一名古屋」を企画。同年、愛知県観光局が主催したアジア大商談会の香港担当者として、香港メディアの招聘などを行った。そのほか、ジェトロ香港事務所の対日投資誘致専門員としても活動している。